史書を訪ねて

多聞院日記 奈良・信貴山

（天正五年十月）十日、（中略）戌半時（午後9時頃）ヨリ信貴城焼了、如何、

十一日、昨夜松永父子腹切自焼了、今日安土ヘ首四ツ上了、則諸軍勢引云々、先年大仏ヲ十月十日ニ焼、其時刻ニ終了、仏ヲ焼ハタス、我モ焼ハテ也、大仏ノ焼タル翌朝モ村雨降了、今日モ爾也、奇異ノ事也

「多聞院日記二」（『増補続史料大成』第39巻、臨川書店）より

多聞院日記

奈良・興福寺塔頭、多聞院の英俊らが書き継いだ日記。46巻。1478年から1618年の記録だが、欠けている年代も多い。興福寺内外の情勢を中心に、大和、山城などの政治、社会、文化などを記している。畿内を中心とした、戦国時代から江戸初期にいたる変革期を知る上で、きわめて価値が高い基礎資料とされる。

解く

「仏罰」めいた自害の記述

天野忠幸
天理大准教授

「多聞院日記」の大部分を執筆したのが興福寺塔頭、多聞院の僧英俊です。この時代、興福寺は大和一国を支配していた頃とは比べものにならないが、大きな影響力を保ち続け、畿内一円から様々な情報がいち早く入ってきました。それを小まめに書きためているのが特徴です。不正確な情報は後で訂正しています。史料としての信頼性が高く、これがなければ戦国期の大和の研究はできません。

ただ、英俊も人間だから、好き嫌いはあるし、僧侶としての立場もある。よそから突然現れ、奈良の市街地を見下ろす高台に巨大な城を築いた、松永久秀には好感情は持っていませんでした。半年間も三好三人衆と市街戦を繰り広げ、大仏を焼く原因となったことも許せなかったのでしょう。久秀が信貴山城で自害した時、英俊は「仏罰」めいた記述を残しています。

久秀が悪く言われるのは、出世しすぎたこともあります。出自も明らかでないのに、実に有能で、主君の三好長慶や将軍の足利義輝と同じ「従四位下」という官位をもらった。周囲からの嫉妬は並大抵ではなかったでしょう。

※ 次週から新企画「日本史アップデート」を掲載し、「史書を訪ねて」「日本書紀を訪ねて」は当面休載します。

「梟雄」久秀 創られた悪逆

奈良盆地一帯を地元では「国中」と呼ぶ。ここは日本という国の揺籃の地。その自負を感じさせる言葉だ。

大阪、奈良の府県境にある信貴山の頂上に登ると、国中が一望できる。戦国末期、大和を支配した松永久秀が最期を遂げた信貴山城があった。

久秀の出自は、最近の研究によると、現在の大阪・高槻周辺とされるが、父親の名前も不明だ。戦国武将、三好長慶に仕え、外交と軍事で頭角を現した。永禄2年（1559年）、大和に入り、興福寺や東大寺を見下ろす高台に多聞山城を築城（約15年間）、実質的な支配者として君臨し、筒井順慶や三好三人衆らと攻防を繰り広げた。最晩年には織田信長に仕えるが、天正5年（77年）、本願寺合戦で参陣していた大坂から突如退き、信貴山城に籠城。信長軍の猛攻に敗れ、没した。

経歴とはよそに、久秀といえば、「戦国の梟雄」で知られる。世上に流布するイメージは次のようなものだ。

「将軍、足利義輝を弑逆し、長慶の嫡子義興を殺害、東大寺の大仏殿を焼いた大悪人。主君を次々と代え、最後は信長を裏切り、茶器、平蜘蛛を道連れに、信貴山城の天守閣で爆死した」

しかし、実際には、その悪名の多くが虚偽であるとされる。義輝殺害は、久秀の子の久通の仕業で、久秀は無関係である可能性が高い。義興は病死で、病状の悪化を心配する久秀の書状もある。三好三人衆との戦いで大仏殿が焼けたのは事実だが、放火したというより、延焼が原因だったとされる。

興福寺の塔頭、多聞院の英俊はよほど久秀のことが嫌いと見え、「多聞院日記」で〈悪逆〉〈大悪人〉と罵倒する。最期について、大仏殿が焼けた時と同じように雨が降ったと「仏罰」を示唆するが、死に様は「腹を切って（城を）焼いた」とするだけで、爆死とは一言も書いていない。爆死説は、悪役に派手な死に際をと、後世の文芸などで付け加えられたうそなのだ。

最後に信長を裏切ったのは事実だ。直前、信長は大和の支配を久秀の仇敵の筒井に任せ、久秀が手塩にかけて築いた多聞山城を破却し安土に移築させようとした。自らが築き上げてきたものをすべて奪い取る信長の仕打ちに対する、70歳の久秀の無念はわからないでもない。

信貴山の頂上近くに、聖徳太子ゆかりの朝護孫子寺の堂宇が広がる。信貴山城とともに焼けたが、その後、豊臣秀頼が再建したと伝わる。寺では6年前から信貴山城の清掃や講演会などを通じ、久秀の復権を目指しており、野瀬密孝法主（58）は「久秀は茶の湯をたしなむなど、文化を愛する一面もあった。実像がどうだったのか、見直していきたい」と話す。

最近、久秀の肖像画が新たに発見された。その表情は穏やかな能史に見え、荒々しい武将にはほど遠い。外交上手で教養が深かったといわれる久秀。本当の姿が今後の研究で明らかになるかもしれない。それもまた、歴史の醍醐味だ。（滝北岳）

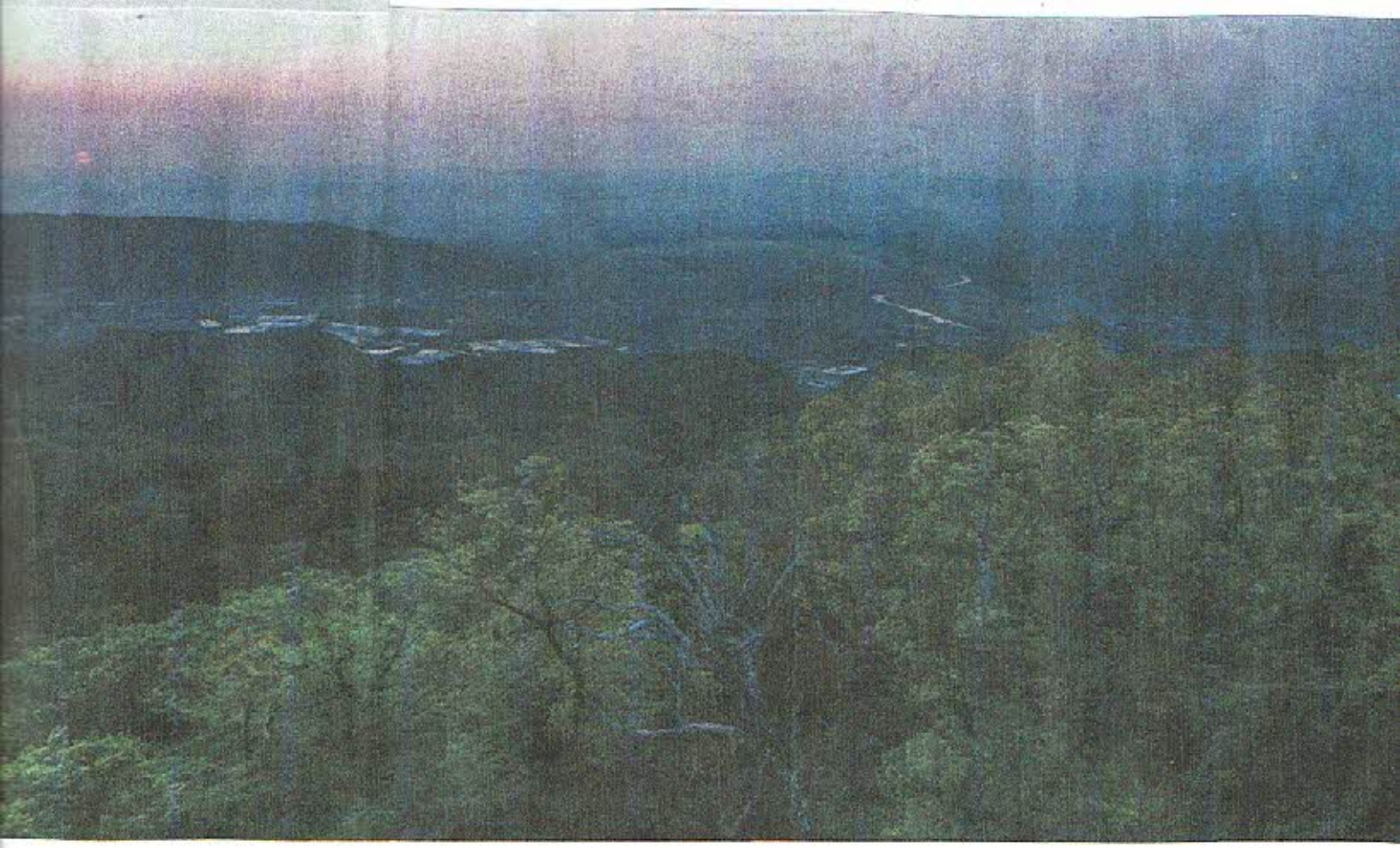
◆「多聞院日記」とその時代

1559年	松永久秀、三好長慶の命を受け、大和に侵攻
62年	久秀、多聞山城を築城
64年	長慶、死去
66年	久秀、三好三人衆との戦いに敗れ、一時行方不明に
67年	久秀、多聞山城に復帰。三好三人衆との戦いで、東大寺大仏殿が焼失
71年	織田信長、比叡山を焼き打ち
73年	久秀、信長に降伏
76年	信長、安土城の築城を開始
77年	信長から離反。信貴山城に籠城するが、自害

城があったとされる信貴山山頂から奈良盆地を望む。朝焼けが空を彩る（奈良県平群町で、小型無人機から）＝河村道浩撮影

松永久秀のものと伝わる墓（奈良県王寺町の達磨寺で）

【アクセス】朝護孫子寺へはＪＲ、近鉄の王寺駅から奈良交通バス約20分、西信貴ケーブル高安山駅からバス約10分。信貴山城址には同寺から山道を徒歩で約20分。



城があったとされる信貴山山頂から奈良盆地を望む。朝焼けが空を彩る（奈良県平群町で、小型無人機から）＝河村道浩撮影